

■演題9 胃粘膜下腫瘍に対する CLEAN-NET の導入と早期成績

代表演者：金平永二 先生（メディカルトピア草加病院外科）

共同演者：[メディカルトピア草加病院外科] 谷田孝、亀井文、高橋昂大

【背景】 内腔発育型粘膜下腫瘍に対する健常胃組織温存や、潰瘍随伴粘膜下腫瘍に対する腫瘍細胞散逸の回避を図る目的で2015年12月に CLEAN-NET（以下CN）を導入し、22例経験したので成績を報告する。

【術式】 適応は、胃内手術適応外症例のうち、自動縫合器による全層切除により変形が懸念されるものとした。術中内視鏡によるガイドに従い、漿膜側から電気メスにより切除を開始する。腫瘍周囲の漿膜筋層を切開し粘膜層を残す。全周切開ののち腫瘍を牽引し伸展させた粘膜を自動縫合器で挟む。術中内視鏡にて狭窄などがないことを確認し切除する。最後に漿膜筋層欠損部を連続縫合で閉鎖する。

【結果】 CN 導入後 10 か月の間に合計 47 例の胃粘膜下腫瘍手術を経験したが、うち 22 例（46.8%）に CN を施行した。全例で en-bloc 切除が行えた。粘膜穿孔を 4 例に経験したが、縫合で対処した。合併症はなかった。手術時間は 50-180 分（平均 98 分）、腫瘍径は 20-90mm（平均 37mm）、病理所見で GIST12、平滑筋腫 5、神経鞘腫 4、異所性腺 1 であった。切除断端は全例で negative であった。

【考案】 CN 22 例を経験したが良好な結果であるため、今後も継続していきたい。